

ツブキ先生の
虫のつぶやき

植物編

秋の困った、びつつき虫
— センダングサの作戦 —

津吹卓



▲写真1：“ひつつき虫”

子どもたちが秋に草むらで遊ぶと、服に、ひつつき虫がびつしりと付いて、困った方は多いと思います(写真1)。この種はとても取りにくいのです。

第1問 なぜ取りにくいのでしょうか。
答え 服に付く部分に仕掛けがあります。逆針になった多くの棘(写真2)が服の繊維



▲写真2：種の逆針構造

に引っ掛かり、外し難いのです。種を取る時に虫眼鏡で見てください。これはセンダングサの仲間の種です。

第2問 種はどんな服にでも付くのでしょうか。

答え 逆針の棘が引っ掛かりやすい服に付きます。セーター等はもちろんのこと、靴下や、ズックのひもの部分にもよく付きます。

第3問 植物はなぜ種を服に付けるのでしょうか。

答え 近くを通った動物に種を付けて、遠くへ種を運んでもらうのです。この植物には、前にお話しした春のスマレのように種を飛ばす仕組みは無く、別の作戦をとっているのです。



▲写真3：センダングサの花

種の話はこれくらいにして、ではどんな花なのでしょう。実は見た目には少し貧弱な花なのです（写真3）。

第4問 普通の花に比べてこの花には一体何が無いのでしょうか。

答え 花びらが無いのです。



▲写真4：キバナコスモスの花

コスモスの仲間（写真4）の花で説明すると、中の部分だけで周囲が無いのです（種類によっては花びらがあるものもあります）。

さて、種が出来るには、

虫が花粉を運んでくれないと困ります。

第5問 一体どんな虫が来ると思えますか。

答え 意外といろいろなチョウやアブなどが来るのです（写真5）。

センダングサの仲間は帰化植物で、もともと日本



▲写真5：ウラナミシジミの訪花

来るのです。適応力が強く、場所があれば生きていく、こうしてセンダングサは繁殖しているのです。

（十文字中学・高等学校（理科／生物）

十文字学園女子大学児童教育学科非常勤講師）

第二〇巻春号 p.54の
下段一行目に「おしべ」とあるのは「めしべ」の間違いです。
お詫びして訂正いたします。
（編集部）



▲写真6：繁殖するセンダングサ